

# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 1940042 \_ 001

## 【1.基本情報】

事業名	水道施設拡張事業					
担当部名	上下水道事業部		担当課名	上水道施設課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	昭和	3	年度～	年度	根拠法令・関連計画 水道法、岐阜市水道事業計画	

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	市民が安心して暮らせる、災害に強い水道水の安定供給					
内容 (手段・手法など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道水の供給に伴う水道施設及び加圧施設において、安定した水道水の供給を可能とする施設の建設、増強及び統合</li> <li>・災害に強い水道を目指して水道水を貯留する配水池の建設</li> </ul>					
事業の 対象	何を	水道水の安定供給				
	誰に	水道の使用者(市民等お客さま)				
	どのくらい	必要供給量の確保				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	方県加圧施設建設用地の取得					

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	3,900	120	323	10	3,180	100
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	3,900	120	323	10	3,180	100

### (2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)		8,690	630	36,464
直接事業費の 主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	方県加圧施設	8,690	630	36,464
	—	0	0	0
	—	0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		0	0	0
計(D)=B+C		8,690	630	36,464

### (3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	12,590	953	39,644

## 【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)		
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	12,590	953	39,644

## 【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	水道使用者(給水人口)	水道使用者(給水人口)	水道使用者(給水人口)
受益者数	347,509	344,571	343,091
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	36	3	116

## 【7.指標】

アウトプット評価(資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	配水池容量		単位	立法メートル
	令和2年度	令和3年度		令和4年度
目標値	73,382	73,382		73,382
実績値	73,382	73,382		73,382

アウトカム評価(アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	—			単位	—
	令和2年度	令和3年度		令和4年度	
目標値	—	—		—	
実績値	—	—		—	
達成状況	—	—		—	

## 【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	市民が安心して暮らせ、災害に強い水道水の安定供給に必要な事業である。 原則、市町村が実施する事業である。 類似の事業はない。
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	計画的な施設の統合を併せて行っており、効率性が高い。 原則、市町村が実施する事業である。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	計画的な配水池の整備により、配水池容量が増加しており、災害時に有効である。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	原則、受益者が使用量に応じて負担する事業であるため、公平性が高い。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	必要性、効率性、有効性及び公平性の観点から、本事業は現状維持とする。 ライフラインである水道インフラ維持のために必要不可欠な事業であるが、今後も施設規模(能力)については、社会経済情勢を踏まえた見直しを行い、決定していく。

# 事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号	1940042	__ 002
----	---------	--------

## 【1.基本情報】

事業名	水道施設整備事業					
担当部名	上下水道事業部		担当課名	上水道施設課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	昭和	3	年度～	年度	根拠法令・関連計画 水道法、岐阜市水道事業計画	

## 【2.事業概要】

目的 (何のためか)	市民が安心して暮らせる、災害に強い水道水の安定供給					
内容 (手段・手法など)	水道水の供給に伴う水道施設、加圧施設及び配水池において、災害に強く、安定した水道水の供給を可能とする施設の改築及び更新					
事業の 対象	何を	水道水の安定供給				
	誰に	水道の利用者(市民等お客さま)				
	どのくらい	必要供給量の確保				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	本荘水源地・東側配水池耐震補強工事ほか					

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	15,600	480	15,504	480	19,716	620
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	15,600	480	15,504	480	19,716	620

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		190,364	403,205	228,655
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	鏡岩水源地新5号ポンプ	40,678	0	0
	雄総水源地自家発	0	348,150	0
	本荘配水池耐震補強工事	0	0	98,116
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		190,364	403,205	228,655

### (3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	205,964	418,709	248,371

## 【4.収入】

収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	205,964	418,709	248,371

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	水道使用者(給水人口)	水道使用者(給水人口)	水道使用者(給水人口)
受益者数	347,509	344,571	343,091
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	593	1,215	724

【7.指標】

アウトプット評価(資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	浄水施設(水源地)の耐震化率			単位	%
	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
目標値	66	66	66	66	
実績値	66	66	66	66	

アウトカム評価(アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	—			単位	—
	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
目標値	—	—	—	—	
実績値	—	—	—	—	
達成状況	—	—	—	—	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
<b>必要性</b> ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	市民が安心して暮らせ、災害に強い水道水の安定供給に必要な事業である。 原則、市町村が実施する事業である。 類似の事業はない。
<b>効率性</b> ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか(広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	計画的な施設改築及び更新を行っており、効率性が高い。 原則、市町村が実施する事業である。
<b>有効性</b> ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	計画的な整備により耐震化率が増加しており、災害時に有効である。
<b>公平性</b> ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	原則、受益者が使用量に応じて負担する事業であるため、公平性が高い。
<b>〔総合評価〕</b> ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	必要性、効率性、有効性及び公平性の観点から、本事業は現状維持とする。 ライフラインである水道インフラ維持のために必要不可欠な事業であるが、今後も施設規模(能力)については、社会経済情勢を踏まえた見直しを行い、決定していく。